

琉球大学学術リポジトリ

阪巻・宝玲文庫の近代資料：
HW652 『沖縄県憔悴山林仕立願』を中心に

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学附属図書館 公開日: 2017-05-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山本, ちひろ メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/36636

【表1】 阪巻・宝玲文庫の近代資料一覧

1 行政文書、団体刊行物

1-1 行政文書(写を含む)

史料番号	史料名	作成者	成立年	概要	備考
HW600	琉球封藩事略 坤		明治6(1873)	写本。原典は外務省の維新外交史編纂業務に従事した坂田諸遠(元秋月藩士、明治維新後は官吏)とされるが、本書は不明。	外務省罫紙 ☆
HW645	意見書		明治11(1878)	写本。明治11(1878)年、大島大支庁詰(支庁長)柿原義則より鹿児島県令である岩村通俊に宛てた「意見書」。	
HW648(1)	西正月～西六月中庫理方金員請取払簿		明治30(1897)	原本。勝連間切の濱比嘉筑親雲上が作成した収支台帳を、川平里主親雲上朝美(1850-1923)が確認。	☆
HW648(2)	申七月～申十二月中庫理方金員請取払簿		明治29(1896)	原本。勝連間切の濱比嘉筑親雲上が作成した収支台帳を、川平里主親雲上朝美(1850-1923)が確認。	☆
HW652	沖縄県憔悴山林仕立願		明治20(1887)	写。明治20(1887)年10月、辺野古村惣代人の提出した憔悴山林仕立替の願書に、地頭代・山方筆者の意見をつけ、国頭役所長朝武士干城が福原実知事宛に提出した文書。	沖縄県罫紙 ☆
HW661	七島問答		明治17(1884)	写本。明治17(1884)年3月頃、鹿児島県令の渡辺千秋の命を受け、同県勸業課の白野夏雲が七島(現在の鹿児島郡十島村)を踏査した際の記録。	鹿児島県罫紙
HW668(1)	漁業権処分按綴		大正元(1912)	写本。①沖縄県沿海漁業処分ニ関スル意見、②那覇港湾ノ漁業調査、③伊那野、地謝嘉、神ノ干瀬漁場処分調査、④慶干瀬漁場処分按、⑤漁業権処分按ノ二(結論)の5点を収録。	☆
HW668(2)	沖縄県水産一斑		大正元(1912)	写本。目次は以下の通り。地勢、潮流及潮汐、沿革、漁業制度並奨励施設、漁民、漁船、漁具及保存法、漁村ノ状態、重要水産生物、海中プランクトン及小動物、主要漁業状態及水産製造業、食塩。	☆
HW668(3)	宮古郡/八重山郡漁業調査書		大正2(1913)以降	写本。宮古諸島・八重山諸島の漁業に関する調査報告書。内容は、漁獲物の数量・価額、漁業の種類・方法、漁業金融、余暇利用の方法、漁業組合などである。	沖縄県立水産学校罫紙 ☆
HW668(4)	鹿児島外四県水産業視察復命書		大正3(1914)以降	写本。沖縄県技手佐々木武治が沖縄県知事大味久五郎宛に、大正3(1914)年6月22日付で提出した復命書。	沖縄県立水産学校罫紙 ☆
HW668(5)	島尻郡座間味村漁業調査復命書		大正元(1912)以降	写本。島尻郡座間味村に関する調査報告書。作成者・成立年不明。巻末に個別の漁業について、沿革、漁業組織、漁具・漁法などに関する記述がある。	沖縄県立水産学校罫紙 ☆
HW684	琉球景況概略		明治11(1878)	作成者不明。記述項目は、地理、駅路、港湾、岬角、山川、城郭、兵營、物産、地質、風俗、居宅、学校などである。	熊本鎮台罫紙 ☆

1-2 団体刊行物

HW669	沖縄県漁業調査書 島尻郡、中頭郡、八重山郡		昭和12(1937)か	南洋水産協会発行。奥付なし。島尻郡、中頭郡の各町村および八重山郡の漁業を漁業種別ごとに記述する。	謄写版 ☆
HW672	創立二十周年記念 糖業と旧慣諸制度	大城昌隆編	昭和8(1933)	沖縄砂糖同業組合発行。仲吉朝助の作成により大正13(1924)年に成立した『琉球産業制度資料』を、糖業に関する資料を中心に再編集し刊行したもの。	謄写版
HW674	八重山島農業論	仲吉朝助著述	明治28(1895)	大日本農会発行。内容は、地形、土質、気候、土地の使用分配及び未耕地の将来、農業組織、農民の状態、農業将来の方針、結論からなる。	活版
HW678A	那覇糖商組合申合規則及議則附細則		明治21(1888)	那覇糖商組合事務所発行。「那覇糖商組合申合規則」、「那覇糖商組合議則」、「那覇糖商組合議事細則」の3点を収録する。	活版 ☆
HW678B	那覇糖商組合規約書		明治21(1888)	那覇糖商組合の結成にあたり福原実知事宛に提出した規約書ka。	活版 ☆

2一般刊行物

2-1 歴史・地理

HW470c-01	沖縄県地誌畧	沖縄師範学校	明治18(1885)	沖縄師範学校編纂による小学校生徒向けの地理教科書。	活版
HW470c-02	沖縄県地誌畧	沖縄師範学校	明治18(1885)	沖縄師範学校編纂による小学校生徒向けの地理教科書。	活版
HW470c-03	沖縄県地誌畧	沖縄師範学校	明治18(1885)	沖縄師範学校編纂による小学校生徒向けの地理教科書。	活版
HW486(1)~(8)	下等小学日本地誌略図問答 卷上 畿内東海道之部 ほか	土橋 荘	明治9(1876)	石田文華堂。下等小学校の児童向けの地理の教材である。(7)~(8)に『下等小学日本地誌略図問答 卷之四 北海道琉球之部』あり。	
HW490-c1(1)~(2)	琉球藩史 一之巻／弍之巻	小林居敬編	明治7(1874)	小林居敬編、青江秀補、米本少蔵校正による歴史書。	
HW505c-02	沖縄志略 一名琉球志略全	伊地知貞馨	明治11(1878)	伊地知貞馨著『沖縄志』全5巻を簡略にした普及版か。	
HW530c-2(1)~(5)	沖縄志 一名 琉球志 一 ほか	伊地知貞馨	明治10(1877)	琉球・沖縄についての歴史・地理書。著者の伊地知は琉球処分の際に沖縄に滞在。	
HW602	琉球事情 日清風聞記	岡田常三郎編	明治14(1881)	岡田常三郎発行。琉球の地誌、薩摩藩の附庸であった歴史、清が琉球を領土と主張する理由等について触れている。	
HW788(1)~(4)	訳注中山伝信録 卷之一～三 ほか	徐葆光原著・桑江克英訳注	昭和14(1939)～昭和16(1941)	琉球王代文獻頒布会(会長屋良朝陳)発行。徐葆光『中山伝信録』の原文に書き下し文と訳注を付けたガリ刷りの書籍。	謄写版
HW798(1)~(4)	続琉球国志略		光緒8(1882)	琉球王国最後の国王、尚泰の冊封使正使趙新(ちょうしん)が同治5(1866)年に著した『続琉球国志略』を、子孫が刊行したもの。	
HW801c-01	琉球小志並補遺附説略		光緒9(1883)	中根淑の「琉球立国始末」「琉球形勢大略」、大槻文彦の「琉球新誌」、重野安禪の「沖縄志後序」ほかを、清国東京公使館随員の姚文棟が漢訳し、アンソロジーとしたもの。	
HW801c-02	琉球小志並補遺附説略		光緒9(1883)	内容はHW801c-01とほぼ類似する。	
HW801c-03	琉球小志並補遺附説略		光緒9(1883)	内容はHW801c-01と類似するが、c-01では27コマより所収の「沖縄志後序」が本書では最初に収載されており、「琉球小志補遺」「琉球概略」が抜けている。	

2-2 地図

HW469	大日本籌海全図(部分)(琉球嶼々地図集)			『大日本籌海全図』(初版1868年、再版1872年)より第33図～第40図を抄録した地図集。	銅版
HW474	九州明細図	香川一秀編纂	明治21(1888)	右下に琉球関係の地図あり。訂正2版。	
HW477	沖縄県管内全図	久米長順	明治18(1885)	久米長順作製・出版の地図。首里および那覇の市街図も収録している。	☆
HW478	北海道諳射訳図 琉球諸島諳射訳図		明治9(1876)	地図1枚(2図)。太田謹閑・浅野明道選「北海道諳射訳図」および浅野明道閑・説田孫三郎選「琉球諸島諳射訳図」。	
HW484(1)~(4)	内国地図 畿内之部、東海道之部 元 ほか	大島細吉編	明治21(1888)	文求堂、全4冊、再版(初版は1878年)。(4)に『内国地図 西海道之部、琉球之部、北海道之部 貞』あり。	銅版

史料番号	史料名	作成者	成立年	概要	備考
HW485 (1)~(5)	大日本籌海図誌 全 ほか		明治5(1872)	著者不明、撰者藤淵臣の海図帖。	銅版

2-3 音楽(工工四)

HW580	工工四 下巻			著者、発行者、刊行年不明。奥付が欠損。琉球古典音楽の楽譜集である。	活版
HW581	琉球楽典安富祖流 工工四 上巻	安室朝持編	明治45(1912)	安富祖流の中興者である安室朝持編纂の工工四である。本来は上中下の3巻よりなるが、阪巻・宝玲文庫では上巻のみを所蔵する。	謄写版
HW582-c1 (1)~(2)	琉球楽典 工工四 上巻 ／下巻・拾遺	大城彦五郎編	大正14(1925)	琉球古典音楽の楽譜集である。本来は上・下・拾遺の3冊からなるが、本資料は上で1冊、下・拾遺で1冊の2冊構成に編集されている。	活版
HW582-c2	工工四	大城彦五郎	大正14(1925)	表紙と奥付が欠損。上巻・下巻・拾遺の3巻が1冊にまとめられている。本書は、渡嘉敷本とよばれる。工工四(くんくんしー)とは琉球古典音楽の楽譜のことである。	活版

2-4 文学(琉歌、童謡、漢詩、戯曲)

HW585	ふしぐみ 琉歌集		大正7(1918) か	前半部分は『ふしぐみ琉歌集』、後半部分(コマ番号39~)は『新選琉歌集』となっている。奥付は大城彦五郎編集・発行、大正7(1918)年10月刊。	活版
HW591	琉球歌謡			「上口説」「下口説」「四季口説」の歌詞を所収した、経本仕様の整版本。作者不明。料亭等で無料配布された演目解説(非売品)か	活版
HW566	家宝教訓歌	崎間功編	昭和11(1936)	親川文房堂発行。「家宝教訓歌」・「イロハ教訓歌」・「具志頭親方[蔡温]イロハ教訓歌」を収録する。	活版
HW568	八重山童謡集	糸数原主人 (岩崎卓爾)編	大正元(1912)	八重山の童謡の歌詞と訳を掲載する。校訂および序は伊波普猷による。昼のうたの部、夜のうたの部から構成される。	活版
HW586	琉歌集	大城彦五郎編	大正14(1925)	上巻・中巻・下巻の三部構成からなる。142首の琉歌を収録する。巻末には琉球古典音楽の指導書である安富祖正元『歌道要法』(1845年)が掲載されている。	活版
HW587A	古今琉歌集 上巻	小那覇朝親編	明治28(1895)	琉歌集。序によれば、小橋川朝昇編『琉球大歌集』を主な典拠に、その他数冊を参照のうえ選別・編集したとのことである。	活版
HW573 (1)~(2)	琉球詩録／琉球詩課		同治12(1874)	共2冊。林世功ほかの官生の習作を編んだもの。巻頭に瑞安の孫衣言が序を寄せ、評定を教習の徐榦が行っている。	
HW574	琉球詩録		同治12(1874)	林世功・林世忠の漢詩習作を編んだもの。孫衣言の序文、評定は徐榦。	版刷
HW575	琉球詩課		同治12(1874)	2巻収載。巻頭の序文がなく、扉題からすぐ「卷之一」(林世功)となっている。また、「卷之二」(林世忠)も収載されている。	版刷
HW584	長虹堤異聞	屋良幾久枝著	昭和19(1944)	琉球王代文獻頒布会発行。琉球史劇の脚本である。	謄写版
HW589	琉球踊狂言	村崎長昶・ 豊好憂郎訳述	明治26(1893)	村崎長昶発行。訳者が琉球で鑑賞した演劇(組踊)の脚本を大和口に訳して刊行したものである。	活版

2-5 その他

HW597	琉語易理哲学	桑江克英	昭和4(1929)	郷土史研究社発行。内容は易占に関するもの。	謄写版
-------	--------	------	-----------	-----------------------	-----

史料番号 史料名 作成者 成立年 概要 備考

3その他
3-1 私製本

HW499	琉球国外交録		明治41(1908) ～ 大正12(1923) か	著者、発行者不明。直筆本。安政元(1854)年1月のペリー艦隊の琉球来航から同年7月の琉米修好条約締結までの経緯が編年的に詳述されている。	
HW535	稿本 校本和漢琉年来記 真境名安興/手校書入本	真境名安興		「和漢琉年来記」と琉球王統記の二部構成になっている。「安興」「笑古蔵書」の印あり。	☆
HW539c-01	沖縄県雑録		明治20(1887) か	書写本。作成者不明。沖縄諸島の概要全般を紹介した書。項目は、地勢・歴史・風俗・貢租・物産・勸業・学校・衛生・医院・裁判所・開墾植民・道路・植物・神社・僧侶ほか。	
HW558	具志頭親方蔡温文若伊呂波琉歌	久高	光緒7(1881)	光緒7年辛巳三月十七日製の、久高某による書写本。内容は、近世琉球の政治家である具志頭文若蔡温(1682-1761)の伊呂波(いろは)歌47首を書写したもの。	
HW559	琉歌集 宮平殿内		明治23(1890)	節名ごとに歌詞を記述したいわゆる節組琉歌集である。裏表紙見返しから2頁目に「明治廿三年起/琉歌集/宮平殿内」とあり、明治23(1890)年に作成されたことがわかる。	
HW565	宮古島の歌		大正14(1925) ～ 昭和10(1935) か	田島利三郎『宮古島の歌』に語注を付して再編集したもの。表紙見返しに「装幀タルー川平朝申」とあり、扉題には「比嘉所有」の書込がある。	☆
HW594(1)～(2)	琉球俗語 上/下	瀬川重礼	昭和18(1943)	東京都小金井の文部省教学錬成所において、瀬川重礼が昭和18(1943)年12月13日筆写した私製本。原典の編著者は不明。	
HW603	沖縄考	暗谷主人	明治18(1885)	羽地朝秀の源為朝渡来伝説その他を引き、沖縄が日本の領土であること、明治政府が沖縄を日本の一県に組み入れることの正当性を主張した内容である。	
HW626	子息教誡壁書			写本。作成者不明。扉に「同治拾(1871)年の夏写す」、「子息教誡壁書 抄」とある。内題では「子息教誡抄」。儒教の様々な教えを記している。手本か。	
HW628	手本文言集			写本。作成年不明。扉に「光緒4(1878)年甲寅正月18日 求之 惠俊(けいしゅん)」と記されている。案文集か。	
HW656	南嶋誌 全			成立年不明。明治6(1873)年、大蔵省役人の久野謙次郎ほか9ヶ月をかけ大島各島村を巡視した結果をまとめた報告書『南嶋誌 大島之部』の写本。	
HW659	大嶋雑話		明治12(1879)	東京府の後藤清平ほか書写。奄美大島の里数・仏事・風俗のほか、和歌を収録している。風俗では服飾・入れ墨などの絵入り。	
HW675	鈴木天川蒐集 砂糖資料	鈴木天川編	明治38(1905) ごろか	鈴木天川編。官報、新聞、雑誌などに掲載された砂糖関係記事を抜粋して筆写(もしくはスクラップ)したものである。	

3-2 絵画

HW744	画 琉球所見/句 孔雀	岡田雪窓ほか	明治45(1912) ～ 大正2(1913) か	句の下に「孔雀」の署名・落款があり、その下に那覇の風物を描いた絵がある。絵は日本画家、岡田雪窓(清次郎)の作品。	☆
HW745	琉球所見	岡田雪窓ほか	明治45(1912) ～ 大正2(1913) か	句の下に「孔雀」の署名・落款があり、その下に首里の風物を描いた絵がある。絵は日本画家、岡田雪窓(清次郎)の作品。	☆
HW747	沖縄風俗之図	仲宗根嶂山	明治22(1889)	仲宗根嶂山(なかそね・しょうざん)の明治22(1889)年の作品である。折本。当時の人々の髪型、針突、簪、各種商売人の風俗、婚礼、葬礼などが色彩豊かに描かれている。	☆

注1) 琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブにて公開中の資料のうち、作成年のわかるもの(推定含む)のみ抜粋した。

注2) ☆は本文で言及した資料である。

注3) 各資料の詳しい解題は、琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブを是非ご覧いただきたい。